

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の参加状況

第4学年	国語	81人	算数	81人	理科	81人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	75人	算数	75人	理科	75人
------	----	-----	----	-----	----	-----

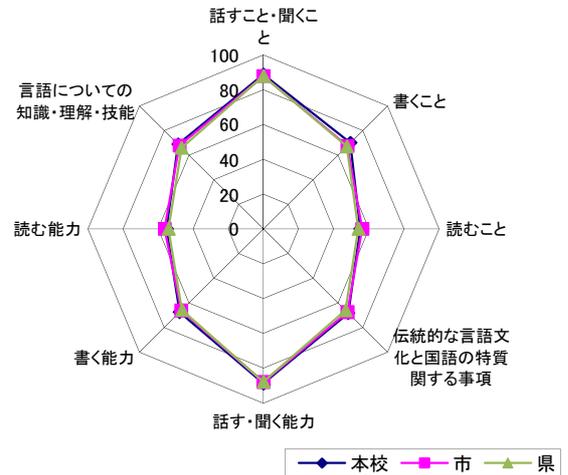
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.8	87.9	87.8
	書くこと	70.0	67.6	67.1
	読むこと	55.2	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.3	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	88.8	87.9	87.8
	書く能力	67.6	66.3	65.7
	読む能力	55.2	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	68.7	67.7	66.0



★指導の工夫と改善

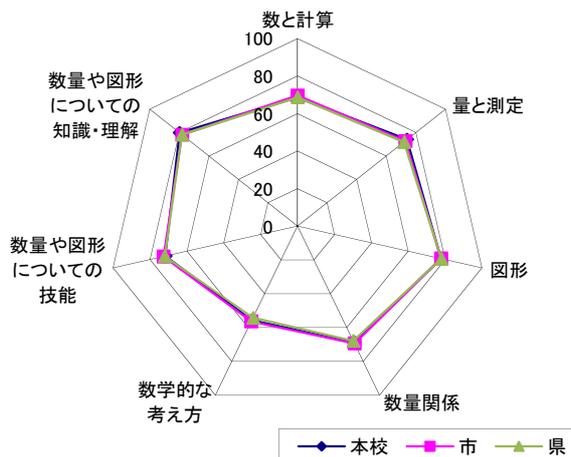
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、市平均、県平均より全体で約1ポイント高い。特に、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことができる設問の正答率は市・県平均より3ポイント以上高く、話の中心に気を付けて聞くことができるという設問の正答率でも市・県平均より約4ポイント以上高い。 ●話し方の工夫に気を付けて聞くことができる設問の正答率では、市・県平均より約4ポイント低い。	・授業や日常生活の中で意図的に話す機会を増やし、伝えたいことは何かをしっかりと考えさせて発表できるようにする。朝の会でのスピーチも指導の場として生かしていきたい。また、友達の話をよく聞き、友達の話の工夫した点を考えながら聞く習慣を身に付けさせるようにしていきたい。
書くこと	○領域の平均正答率70%で、市・県平均より約3ポイント高い。招待する手紙の形式を理解し、あいさつの言葉を書くことが出来る設問の正答率では市平均より5.6ポイントも高く、県平均より2.4ポイント高い。また、招待する手紙で、読み手に伝えたい事柄を正確に伝えられるよう注意して書くことができる設問の正答率では県平均より9ポイント以上も高い。招待する手紙の形式を理解し、書くことに慣れてきて定着が見られた。 ●招待する手紙を、敬体で書くことができる問題では、県平均より3.1ポイント低い。敬語の使い方について定着が図られていないことが分かる。	・手紙や招待状は、学校行事や校外学習等で書く機会があり、進んで書く姿が見られる。また、手紙を書く単元の学習でも十分に練習し、身近な方へ手紙を書いているので効果があったと思われる。 ・手紙の内容に着目し、目上の方やお世話になった方へ敬語を使って文章を書く練習を、国語の授業や総合的な学習・学活の時間等で意図的に取り入れていきたい。
読むこと	○領域の正答率は55.2%で県平均より1.1ポイント低く、市平均より1.1ポイント高い。特に文と文のつながりに注意して、文章を読むことができるの設問の正答率では76.3%で、県の平均より8.6ポイント高い。また、場面の様子を叙述を基にして読むことができる設問の正答率では、校内の平均が40%で県の平均より7.8ポイント高い。日頃の読書の成果が表れ、場面展開を読み取る力が定着したと思われる。 ●叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むことができる設問の正答率は48.8%で県平均より5.1ポイント低い。	・引き続き毎日音読に取り組みせると共に、ただ読むのではなく心情や情景について考えながら読めるようにしていく。 ・教材を通して場面の様子をとらえながら、丁寧な読み取りを進めていく。 ・朝の読書や読み聞かせなどを通して、読書の楽しさを味わわせ進んで本に親しめるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○指示語の使い方を理解している設問の正答率は68.8%で、県平均より、1ポイント高い。普段の読書の量から指示語の理解の定着が見られる。 ●日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方を理解している設問の正答率は、48.8%で、県平均より3.1ポイント低い。ローマ字の基本の文字の理解と定着に課題が見られる。	・ローマ字の基本に戻り、何回も書く・読むを繰り返し、簡単な単語や文が書けるようになるまで練習を重ねていく。 ・日常生活に出てくる簡単な物の名前や人物の名前をローマ字で書けるようになるまで指導を繰り返し、定着を図っていく。

宇都宮市立雀宮南小学校第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.6	69.6	68.7
	量と測定	74.0	72.8	72.0
	図形	77.8	77.8	78.0
	数量関係	68.8	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	55.7	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	71.7	72.7	72.0
	数量や図形についての知識・理解	79.8	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

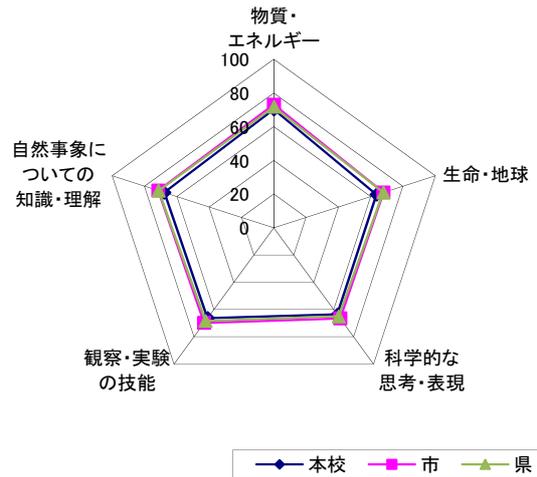
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「わり算」に関する設問の正答率は72.2%で、市平均より1.2ポイント、県平均より3.2ポイント高い。また「大きい数・小数・分数」に関する設問の正答率は、市平均より0.2ポイント、県平均より1ポイント高い。式を用いながら理由を説明する設問で市や県を大きく上回り、自分の考えを言葉で表す力の定着が見られる。</p> <p>●3位数×2位数＝5位数の計算をする設問の正答率は43.8%で、基本問題の中で最も低く、県平均より9ポイント低い。かけ算の筆算の定着に課題が見られる。</p>	<p>・かけ算の筆算の仕方の定着のためには、式を書く際に位を縦にそろえることや、繰り上がりを書く位置などの、技能として身に付けるべきポイントを丁寧に確認させていきたい。また、計算ドリルや計算プリントを活用するなどして家庭学習における計算練習の機会を保障できるようにしたい。</p>
量と測定	<p>○領域の正答率は74%で、市平均より1.2ポイント、県平均より2ポイント高い。「時刻と時間」に関する設問の正答率は、市平均より1.1ポイント、県平均より2.6ポイント高い。特に、ある時刻から一定時間前の時刻を求める設問の正答率が80%と高く、県平均より5.6ポイント高い。</p> <p>●時間の分と秒の単位の関係を考える設問の正答率が、市平均より0.6ポイント、県平均より0.4ポイント低く、単位の関係の理解に課題が見られる。</p>	<p>・時間の分と秒の単位の関係の定着のためには、1分＝60秒であることを確実に理解させていきたい。また、「分→秒、秒→分」の変換の練習の際に、第3学年の教科書の問題を取り入れるなどして、復習の機会を設けていく。</p>
図形	<p>○領域の中でも、球の半径と直径の関係に関する設問の正答率が、市平均より4.1ポイント、県平均より3.8ポイント高い。球の性質の理解に一定の成果が見られる。</p> <p>●領域の正答率は77.8%で、県平均より0.2ポイント低い。特に、二等辺三角形の設問の正答率は、市平均より4.1ポイント、県平均より4.5ポイント低い。二等辺三角形の定義の理解に課題が見られる。</p>	<p>・二等辺三角形の定義の定着のためには、「2つの辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形という」ということを確実に理解させていきたい。また、実際に二等辺三角形を作図させることで、定義の理解を深められるようにしたい。さらに、折り紙などを使った算数的活動を取り入れることで、児童の気付きを引き出す学習を行うよう改善していく。</p>
数量関係	<p>○「ぼうグラフ」に関する設問の正答率は80.6%で、県平均より0.2ポイント高い。特に、文章問題の立式・計算の正答率は83.8%で、市平均より5.2ポイント、県平均より6.2ポイント高い。</p> <p>●領域の中でも、「□を使った式」に関する設問の正答率が53.1%で、市平均より4.2ポイント、県平均より2ポイント低い。□を使った式の定着に課題が見られる。</p>	<p>・□を使った式の定着のためには、文章問題を言葉の式にしてから立式するというのを徹底させ、わからない数は何なのかを意識しながら解くよう指導していきたい。また、図に表すなどして視覚的に理解させるような指導を取り入れていきたい。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.3	73.1	71.8
	生命・地球	63.6	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	63.6	66.5	65.0
	観察・実験の技能	66.3	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	67.8	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

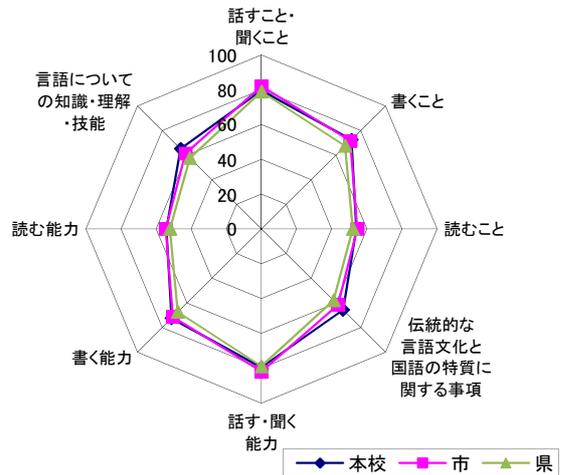
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「光のせいしつ」に関する設問では、市の平均を0.8ポイント、県の平均を1.4ポイント上回っている。また「じしゃくのせいしつ」の単元では、市の平均を0.5ポイント、県の平均を1.4ポイント上回っている。設問ごとに見ると、「光を集めたときのあたたかさや明るさ」については10.7ポイント、「乾電池と豆電球との接続」については12.2ポイント県の平均を上回っている。</p> <p>●全体的にも市の平均と比べて2.8ポイント下回っているが、「ものと重さ」に関する設問では、市・県の平均よりも9.1ポイント下回っている。中でも正答率の低かった問題は、「電気の回路」に関するもので約6割、「電気を通すものと磁石に引きつけられるものの比較について」は約2割であった。</p>	<p>・「ものと重さ」の単元での正答率が市や県よりも低く、ここでは正しい器具の使い方や実験をするための条件について、理解度が低いことが分かった。今後、各単元において基本的知識を確実に身につけさせるよう、また観察や実験をするときの着眼点をしっかりとおさえて指導するよう改善していく。</p>
生命・地球	<p>○「太陽と地面のようす」に関する設問では、ほぼ市・県の平均と同等の正答率であった。身の回りの花の様子についての設問では9割以上の正答率を出している。</p> <p>●「こん虫と植物」に関する設問では、市・県の平均より8.8ポイント下回っている。設問ごとに比較すると、「昆虫による変態の違い」についてが市や県の平均よりも20ポイント以上、下回っている。また、市や県も同様に正答率の低さが目立つのが、「虫眼鏡や方位磁針の使い方」についての設問で約4割であった。</p>	<p>・「こん虫と植物」の単元の昆虫の分野において正答率の低さが目立つことから、しっかりと基礎的な知識の習得やよりよい観察の仕方について指導の改善を図っていく。</p> <p>・虫眼鏡や方位磁針などの様々な器具を時と場合に応じて繰り返し使用させることで、使い方に慣れさせながら、理解して使えるよう指導をしていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.6	82.0	78.9
	書くこと	72.5	71.5	67.4
	読むこと	54.1	54.6	52.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.7	61.7	58.1
観点	話す・聞く能力	79.6	82.0	78.9
	書く能力	72.5	71.5	67.4
	読む能力	54.1	54.6	52.1
	言語についての知識・理解・技能	65.1	61.3	57.7



★指導の工夫と改善

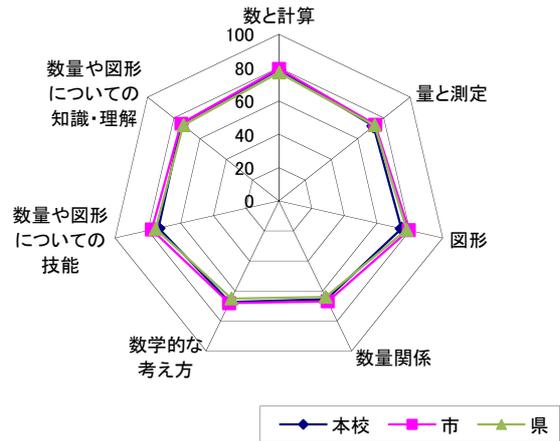
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○県や市の平均とほぼ同じ状況である。司会者の話し合いの進め方の工夫について、県平均を5.5ポイント上回っている。	・全校的に実施している「話すポイントかきつけ」「聞くポイントあいうえお」を常に意識させる指導を継続し、朝の会での一分間スピーチも継続していく。
書くこと	○県の平均を、5.1ポイント上回っている。作文の問題では、指定された長さで文章を書く問題、2段落構成で分章を書く問題共に県平均を上回り、2段落構成の問題は、県平均を11.9ポイント上回っている。	・4年時の宇都宮市の定着度調査では、市の平均を大きく下回っていたので、段落構成を意識した作文の学習に力を入れてきた成果と考えられる。日常の観察でも、作文力の向上を感じているところである。引き続き、書く活動を意識的に取り入れていく。
読むこと	○県や市の平均とほぼ同じ状況である。場面の様子を読み取り表現を書き出す問題では、県平均を13ポイント上回っている。 ●場面の様子を読み取る問題の中の、思考・判断・表現の領域の問題は、県平均を5.2ポイント下回っている。	・朝の読書や日常的な図書館利用を継続し、進んで本に親しめるような指導を継続する。また、宿題や朝の学習には、読み取る問題のプリントも取り入れて、場面を読み取る力の向上を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○県平均を7.4ポイント上回っている。特に、言葉の学習の分野では、修飾語が19.1ポイント、慣用句が11.1ポイント、漢字辞典の使い方が13.1ポイント上回っている。 ●3学年配当の漢字を書く問題が、県平均を11.9ポイント下回っている。	・前学年の漢字の問題のプリントを宿題や自主学習等に取り入れて、定着を図っていく。

宇都宮市立雀宮南小学校第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.8	79.3	77.1
	量と測定	72.0	73.4	72.9
	図形	75.0	79.4	78.0
	数量関係	65.6	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	67.5	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	73.6	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	74.2	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

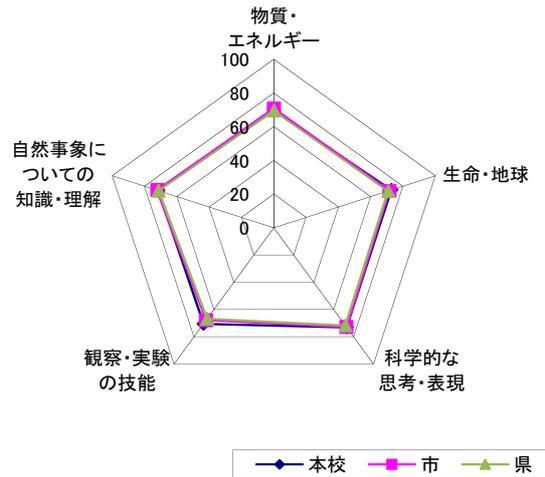
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○県平均を1.7ポイント上回っている。特に、億と兆・概数の表し方については、県平均より6ポイント高い。 ●小数×整数の計算が、県平均を7.2ポイント下回った。	・小数のかけ算については、その後に学習する小数×小数の計算や、小数のわり算の基本となる計算であるので、つまづきが見られる児童には、小数×整数の計算に戻って確認させていく。
量と測定	○県平均とほぼ同じ状況である。角の大きさを見当をつける問題は、県平均を6.4ポイント上回った。 ●面積の平方メートルと平方センチメートルの関係についての問題は、県平均を10.4ポイント下回った。	・面積の平方メートルと平方センチメートルの関係については、実物大の1平方メートル大の教具を利用して、1平方センチメートルとの違いを実感させたうえで、理解させるようにする。
図形	○立方体の展開図については、県平均を2.7ポイント上回っている。 ●平均正答率は、県平均を3ポイント下回っている。中では、ひし形の作図については、県平均を12.1ポイント下回った。	・ひし形の作図については、ひし形の性質である「四辺の長さが等しい」ということが再確認でき、作図の技能を向上させるような問題のプリントで定着させていく。
数量関係	○県平均を1.6ポイント上回っている。特に、正方形の1辺の長さと周りの長さの変わり方については、県平均を6ポイント上回り、それを○と△の式に表す問題は、県平均を8.5ポイント上回っている。 ●折れ線グラフの読み取りについては県平均を10.7ポイント下回った。	・社会の資料などで折れ線グラフの読み取りを意識的に取り入れることで、折れ線グラフに親しませ、より身近に感じられるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.6	70.8	69.5
	生命・地球	72.8	71.5	70.8
観点	科学的な思考・表現	73.0	72.8	71.7
	観察・実験の技能	70.4	67.8	66.8
	自然事象についての知識・理解	71.6	72.3	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、県平均とほぼ同じである。空気と水の性質についての問題は県平均を5.6～8.9ポイント上回った。また、直列つなぎの問題は、県平均を5.6ポイント上回った。</p> <p>●空気や水を温めたときの体積の変化・金属を熱したときの温まり方・水蒸気についての問題が、県平均を5.7ポイント下回っている。</p>	<p>・金属、水、空気と温度の問題に課題がある。実験に際しては、問題・予想・結果・考察の過程をしっかり行い、重要なポイントを強調するなどして、学習内容の理解を深めていく。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は、県平均を2ポイント上回っている。背骨が曲がる理由を説明する問題は、県平均を12.9ポイント上回った。また、季節によって生物の様子が変わることについては、県平均を6.9ポイント上回った。天気の様子については、気温測定の方法が8.3ポイント、天気の推測が5.1ポイント県平均を上回った。</p> <p>●水の自然蒸発の問題が、県平均を7.1ポイント下回った。</p>	<p>・水の自然蒸発の問題は、ラップでふたをしたピーカーの場合、ふたの内側に水滴がつかないと解答してしまった児童の割合が多かった。実験に際しては、しっかりと観察させ、現象を記録し、考察を話し合うよう指導する。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校第4学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「家で宿題をやっている」、「毎日、朝食を食べている」、「学校の準備は自分でしている」などはいずれも肯定率が95%を超え、基本的な生活習慣は身に付いている様子がうかがえる。

○「人と話すことは楽しい」、「時間や約束を守ることは大切だ」、「自分は家族の大切な一員だと思う」なども肯定率90%を超えていることから、人や家族とのふれあいで満足度が高く、自己肯定感も強い。

○学習に対する意識を見ると、「各教科の授業内容がよく分かる」が概ね90%、多少各教科でばらつきはあるが「学習は好きですか」、「将来のために大切だと思いますか」の問いにも、ほぼ80%以上の肯定率を得ている。これより、楽しく意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。

●学習について、予習・復習や自主学習に取り組んだり、自分で気になったことを本やインターネットなどを利用して調べるといふことに関する設問に肯定的に回答している割合は、県や宇都宮市全体と比べても低く30～45%である。また、分からない言葉を辞書を活用したり、国名や地名について地図帳などを活用したりして調べることに関しても約50%の肯定率である。以上のことから、決められた学習や指示されたことはよくできる反面、自ら考えて学習に取り組んでいく力はまだ弱いことが分かる。さらに、本やインターネットなどから日常的に情報を得ている児童は3割程度と、県や市よりも10ポイント程度下回っている。

●授業において、意欲的に学習に取り組んでいると答えている一方、「グループなどでの話し合いに進んで参加している」、「友達の前で意見を発表することは得意だ」、「話し合うとき友達の話や意見を最後まで聞くことができている」という質問では、県や市よりも10ポイント以上肯定率が低いことから、話し合いが不得意で、聞く力にも苦手意識が強いことがうかがえる。

宇都宮市立雀宮南小学校第5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

- 「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」については、県平均を5.4ポイント上回っている。
- 「クラスは発言しやすい」については、県平均を6.4ポイント、「友達の前で意見を発表することは得意」については、県平均を17.2ポイント上回っている。発表・発言に肯定割合が高い。
- 家の人との会話についての質問は、4問共県平均を上回っている。
- 主要4教科について好きと答えた割合が、県平均を上回っている。
- 音楽が好きと答えた割合が、県平均を10.3ポイント上回っている。

- 「家で自分で計画を立てて勉強している」(-11.3ポイント)・「家で授業の予習をしている」(-14ポイント)・「家で授業の復習をしている」(-18.2ポイント)、といった家庭学習について、肯定的な回答の割合が低い。家庭学習について課題が見られる。
- 「できるだけ自分一人の力でものごとを解決しようとしている」についての学級差が30ポイントある。